

先人が築いた遺産を礎につくる未来都市こうふ

自治体名：山梨県甲府市

1. 地域特性と課題及び目標

- 山梨県の中央に位置し、歴史・文化遺産や豊かな自然、特色のある地場産品など、多様な地域資源を有する。
- 総人口は、昭和60年の208,074人をピークに減少に転じ、令和5年10月時点で187,487人となっている。
- 地域産業の事業所数及び従業者数は減少傾向にあるため、持続可能性の向上と「稼ぐ力」「雇用力」の強化を図る。
- 人口減少を抑制するため、切れ目のない少子化対策やリニア開業のメリットを最大限に市域に反映させるまちづくりに取り組む。
- 市内に集積している水素エネルギー研究機関等と連携し、市民・事業者・行政が一体となってゼロカーボンシティの実現を目指す。

2. 全体計画の概要

武田家のレガシーをはじめとする歴史・文化遺産、昇仙峡や国立公園の自然資源など、先人たちが築いた多様な地域資源をSDGsの理念と手法を積極的に活用して再活性化すると共に、水素エネルギー研究開発機関等の集積やリニア中央新幹線の開業という最先端な環境を活かし、継承と変革が調和した新たな価値を創造するまちづくりを推進し、2030年の甲府市のあるべき姿を実現する。

3. 関連するゴール



4. 2030年のあるべき姿

「甲府市SDGs推進パートナー」をはじめとした多様なステークホルダーとの連携を図り、「甲府市SDGs推進ビジョン」に基づいた積極的なSDGsの推進により、次の7つの「2030年のあるべき姿」の実現を目指す。

- ① 一人一人が輝き活躍できるまち
- ② 多様なライフスタイルが叶うまち
- ③ 持続可能な成長ができるまち
- ④ 誰もが協働できるまち
- ⑤ 安心・安全に住み続けることができるまち
- ⑥ 誰一人取り残さない「Society 5.0」のまち
- ⑦ 「new era（新時代）2040」に対応可能な行政運営の実現

6. 他地域への展開見込

（普及効果）

SDGsの理念や手法を活用した地域資源の再活性化により、全国の地方都市の共通課題である地域経済の衰退等の解決につなげていく取組は他都市への横展開に適していると考えます。また、次世代エネルギーを軸とした統合的な課題解決の取組は、脱炭素と経済成長、そして、地域活性化による人口減少対策という他の地方都市の課題解決につながる取組になると考えます。

5. 自治体SDGs推進等に向けた取組

【特に注力する先導的取組】

◆ 次世代エネルギー地産地消都市“グリーンなまち甲府”プロジェクト

水素や太陽光をはじめとした次世代エネルギーの地産地消を促進し、地域産業やまちづくり、市民生活へ浸透させることで、環境負荷の低減はもとより、新たな付加価値による地域の活性化につなげる。

経済 持続可能な地域産業の確立

宝飾産業や観光産業への水素アプリケーションの導入実証や、新たなバイオマスエネルギーの地産地消を目指す取組を推進し、次世代エネルギー導入による持続可能な地域産業の確立を図る。

社会 人・企業から選ばれるまちの実現

水素リテラシー日本一を目指した先進的な環境教育や、学生と連携した水素アプリケーション研究開発など、次世代エネルギーを活かした人材育成やまちづくりを推進し、人や企業から選ばれるまちの実現を目指す。

環境 カーボンニュートラルの推進

水素・燃料電池アシスト自転車の走行実証や、住宅用太陽光発電システム等のグリーンエネルギー機器購入支援など、次世代エネルギーの社会実装を促進する取組により、カーボンニュートラルを推進する。

【三側面をつなぐ統合的取組】

◆ “こうふグリーンラボ”による次世代エネルギー利活用促進事業

ゼロカーボンを推進する戦略拠点「こうふグリーンラボ」において、水素をはじめとした次世代エネルギーの利活用を促進するための実証事業や普及啓発を実施する。

- ① 水素エネルギー小口供給実装に向けた調査研究
- ② 多様な主体や媒体による次世代エネルギーの普及啓発

